

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

拡大基調が続いたアジアの輸出に頭打ちの兆候 (Asia Weekly (6/5～6/9))

～世界経済の自律回復の一服感が影響を与えつつある模様～

発表日: 2017年6月9日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部

首席エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/5(月)	(マレーシア)4月輸出(前年比)	+20.6%	+20.6%	+24.1%
	4月輸入(前年比)	+24.7%	+31.3%	+39.4%
6/6(火)	(台湾)5月消費者物価(前年比)	+0.59%	+0.60%	+0.10%
	(フィリピン)5月消費者物価(前年比)	+3.1%	+3.3%	+3.4%
	(豪州)金融政策委員会(政策金利)	1.50%	1.50%	1.50%
6/7(水)	(豪州)1-3月期実質GDP(前年比)	+1.7%	+1.6%	+2.5%
	(台湾)5月輸出(前年比)	+8.4%	+7.0%	+9.4%
	5月輸入(前年比)	+10.2%	+9.6%	+23.5%
	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	6.25%	6.25%	6.25%
6/8(木)	(中国)5月輸出(前年比)	+8.7%	+7.2%	+8.0%
	5月輸入(前年比)	+14.8%	+8.3%	+11.9%
6/9(金)	(中国)5月消費者物価(前年比)	+1.5%	+1.5%	+1.2%
	5月生産者物価(前年比)	+5.5%	+5.6%	+6.4%
	(フィリピン)4月輸出(前年比)	+12.1%	+19.4%	+18.1%
	4月輸入(前年比)	▲0.1%	+13.1%	+18.0%
	(マレーシア)4月鉱工業生産(前年比)	+4.2%	+4.8%	+4.6%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【台湾】～食料品を中心にインフレ圧力は高まるも、景気の先行き不透明感などは物価の重石となる様子～

6日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+0.59%となり、前月(同+0.10%)から伸びが加速した。前月比も+0.08%と前月(同▲0.03%)から3ヶ月ぶりに上昇に転じており、昨年来の原油相場の底入れに伴うエネルギー価格の上昇圧力には一服感が出ているものの、生鮮品を中心に食料品価格が上昇基調を強めており、生活必需品を中心に物価上昇圧力が高まっている。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.11%と前月(同+1.00%)から伸びが加速しているものの、前月比は+0.05%と前月(同+0.71%)から上昇ペースは鈍化しており、必ずしも物価上昇圧力が高まっている様子はいかたがえな。サービス物価を中心にインフレ圧力が後退しているほか、消費財価格についても幅広く上昇ペースが鈍化するなど物価上昇圧力が後退している。足下では昨年来回復基調が続いてきた外需に頭打ちの兆しが出ており、景気の先行きに対する不透明感が出ていることも物価の重石になっている可能性がある。

7日に発表された5月の輸出額は前年同月比+8.4%となり、前月(同+9.4%)から伸びが鈍化した。前月比も▲1.6%と前月(同▲0.1%)から3ヶ月連続で減少しており、年明け直後にかけて拡大基調を強めてきた輸出に一段と一服感が出ている。主力の電子部品関連をはじめとする機械製品などの輸出に頭打ちの兆しが出ているほか、その動きに伴って素材関連や部材関連の輸出も鈍化している。国・地域別では、中国本土向けに底堅さがみられるほか、米国やEU向けなども比較的堅調な動きが続いている一方、日本向けやASEANな

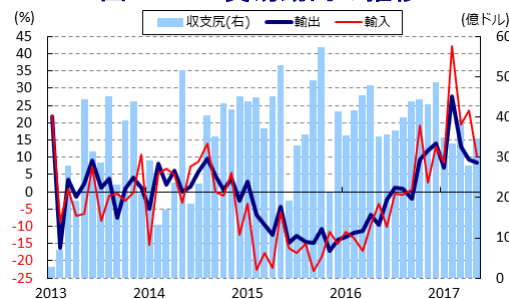
アジア新興国向けの鈍化が全体の足を引っ張っている。一方の輸入額は前年同月比+10.2%となり、前月(同+23.5%)から伸びが大きく鈍化した。前月比も▲6.5%と前月(同+5.0%)から2ヶ月ぶりに減少に転じており、国際商品市況の調整圧力が強まっている上、輸出に頭打ちの動きが出ていることで原材料などに対する需要鈍化も輸入額の下押しに繋がっている。結果、貿易収支は+34.59億ドルと前月(+27.84億ドル)から黒字幅が拡大している。

図1 TW インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 TW 貿易動向の推移



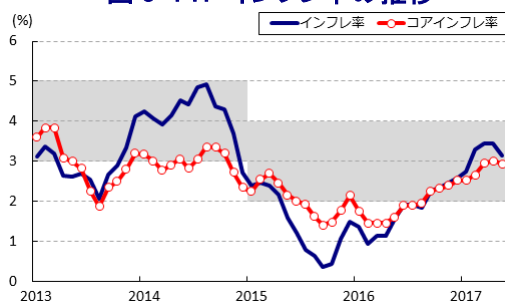
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

【フィリピン】 ~商品市況の調整でインフレ圧力に一服感、拡大基調が続いた輸出にも頭打ちの兆し~

6日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+3.1%となり、前月(同+3.4%)から伸びが鈍化した。前月比も+0.07%と前月(同+0.20%)から上昇ペースが鈍化しており、生鮮品を中心とする食料品価格の上昇に一服感が出ている上、年明け以降の原油相場の調整などに伴いエネルギー価格も調整するなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が後退している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.93%と前月(同+3.01%)から減速して2ヶ月ぶりに3%を下回る伸びとなっており、前月比も+0.07%と前月(同+0.28%)から上昇ペースが鈍化している。旺盛な個人消費をはじめとする内需を背景に堅調な景気拡大が続いており、一部のサービス物価に上昇圧力はくすぶるものの、エネルギー価格の調整に伴う輸送コストの下押し圧力により幅広く消費財で物価上昇圧力が後退する動きがみられる。堅調な内需は物価の押し上げに繋がる可能性はあるものの、今後も原油をはじめとする国際商品市況の動向に左右される展開が続こう。

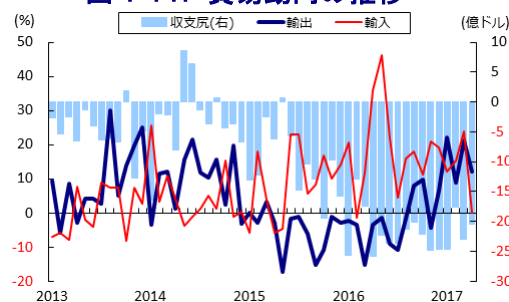
9日に発表された4月の輸出額は前年同月比+12.1%となり、前月(同+18.1%)から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月ぶりに減少に転じたほか、基調としても減少の動きが強まっており、昨年来拡大基調が続いた輸出に頭打ち感が出ている。主力の電子部品関連を中心とする電気機器類の輸出に下押し圧力が掛かっており、世界経済の自律回復の動きに一服感が出ていることが輸出の足を引っ張っている。国・地域別では、中国向けのみならず、日本や米国、EUなど先進国向けにも軒並み下押し圧力が掛かっている。一方の輸入額は前年同月比▲0.1%となり、前月(同+18.0%)から14ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。前月比も3ヶ月ぶりに下落に転じており、国際商品市況の調整が輸入額の下押し圧力に繋がっているほか、輸出に頭打ち感が出ていることを受けて素材や部材など原材料に対する需要が鈍化したことも影響している。結果、貿易収支は▲20.52億ドルと前月(▲22.97億ドル)から赤字幅が縮小した。

図3 PH インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 PH 貿易動向の推移



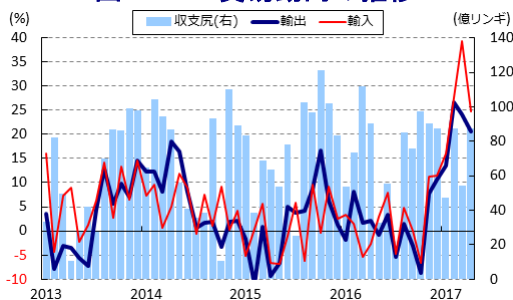
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア] ～世界経済の自律回復を追い風に拡大基調が続いてきた輸出に頭打ちの動きが出つつある～

5日に発表された4月の輸出額は前年同月比+20.6%となり、前月(同+24.1%)から伸びが鈍化した。前月比は▲3.9%と前月(同▲1.0%)から2ヶ月連続で減少しており、世界経済の回復などを追い風に拡大基調を強めてきた輸出に一服感が出ている。主力の電子部品をはじめとする電気機械関連の輸出額に大きく下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、原油をはじめとする国際商品市況の調整の動きに伴い、原油や石油精製品、天然ガス、パーム油などの輸出額が鈍化している。また、天然ゴムや木製品など幅広い財で輸出額に調整模様が広がっている。国・地域別では、ASEANなど周辺国向けのみならず、中国向けをはじめとするアジア新興国向けに加え、米国やEU、日本などの先進国向けも軒並み鈍化しており、裾野広く調整している様子がかえらる。一方の輸入額は前年同月比24.7%となり、前月(同+39.4%)から伸びが鈍化している。前月比も▲12.5%と前月(同+4.0%)から4ヶ月ぶりに減少に転じており、輸出の底入れなどを背景に堅調な推移をみせてきた輸入に大きく下押し圧力が掛かっている。国内需要の弱さを反映して消費財関連の輸入が鈍化している上、輸出の頭打ちの動きに伴い輸送用機械をはじめとする資本財の輸入額が大きく減少したほか、中間財の輸入額も低迷するなど、幅広く下押し圧力が掛かっている。結果、貿易収支は+87.52億リングと前月(+54.00億リング)から黒字幅が拡大している。

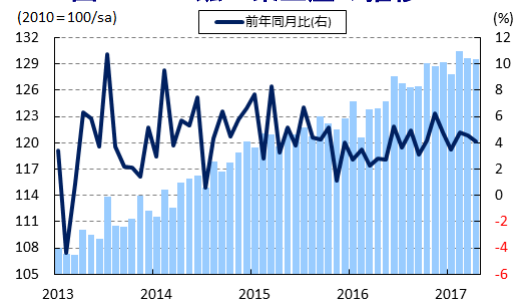
9日に発表された4月の鉱工業生産は前年同月比+4.2%となり、前月(同+4.6%)から伸びが鈍化した。前月比も▲0.1%と前月(同▲0.6%)から2ヶ月連続で減少しており、拡大基調が続いた生産に一服感が出ている。国際商品市況の調整圧力が強まっていることを受けて鉱業部門の生産に大きく下押し圧力が掛かっており、原油や天然ガスの生産が急速に鈍化している一方、製造業の生産には底堅さがみられる。自動車をはじめとする輸送用機器の生産は鈍化しているものの、電子部品や家電製品をはじめとする電気機器の生産は比較的堅調な上、部材など素材関連の生産も底堅く推移しており、輸出関連産業を中心に生産は堅調を維持している。

図5 MY 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上